

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 事後評価結果

大 学 名	京都大学
-------	------

◇大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	目的は概ね実現された。
(コメント) 拠点大学の国際化については、総長のリーダーシップの下、全学的な取組がなされており、概ね全ての取組において着実に成果が上がっている。国際高等教育院において、全学的に教員が参画し、多くの全学共通の英語科目を提供していることは評価できる。 英語による授業のみで学位が取得できるコースについては、計画どおり開設されている。定員を大きく超える志願者を集めているコースがあるものの、志願者数及び入学者数が十分でないコースもあるため、今後の改善が望まれる。 留学生受入のための環境整備については、経済的支援、就職支援や日本語教育制度の充実等、適切な取組がなされているとともに、SD（スタッフ・ディベロップメント）活動を積極的に行っていることも評価できる。 海外大学共同利用事務所の整備については、京都大学ーベトナム国家大学ハノイ共同事務所が計画どおり設置され、共同利用事務所としての機能を果たしている。現地におけるネットワーク構築や日越双方からの共同所長による運営は評価できる。 目標の達成状況については、概ね目標を達成している。ただし、留学生受入については、短期留学生や研究生等が多いため、学士課程及び修士課程の留学生の受入に対する渡日前入学許可制度の改善等、一層の取組が望まれる。 今後の展開及び高等教育の国際化に対する貢献については、特に国際高等教育院における取組内容に関して、他大学への波及効果が期待できる。また、挑戦的な国際戦略である「2x by 2020」の達成に向けた一層の取組を期待する。	